

J E M S Jiho 時報

日系人福音宣教協力会

第 51 卷

2019 年 4・5・6 月号



地の果てに至るまで、わたしの証人となる。(使徒 1:8)

地の果てに至るまで

ルイビル日本語教会牧師
佐藤岩雄師

ハレルヤ、主にあつて、ケンタッキー州から挨拶申しあげます。ケンタッキーは、アメリカの地図で中央から少し東に位置する南部の州です。ブルーグラス・ステートと呼ばれ、サラブレッドを育てる牧場が



佐藤師とご家族

あちらこちらにあり、ゴルフの大きな大会が開かれるような自然豊かな場所です。

この数十年の間、近隣の地域は自動車産業の発展とともに、日本人の数が増えてきました。二〇一〇年五月から、私はルイビルで教会を始め、現在、ルイビル日本語教会を中心にケンタッキー州、インディアナ州南、テネシー州などを定期的に巡回訪問し、礼拝と集会の奉仕をしています。

中西部や南部に広がる日本語を話すクリスチャンの集会は、どれも小さなものです。日本語を話す牧師がいない中で数名、数十名で集会をしている場所がほとんどです。しかし、それらの集会在互いに連絡をとり、祈り合い励ましなが

ます。この場所で、私たちが経験

しているのは、ヨハネ福音書十五章で、「わたしはまことのぶどうの木」であると主イエスが言われた福音の働きの広がりとの繋がりで、たとえば、ルイビル日本語教会にはいくつかの理由から、自分たちの教会がありません。地元の教会の部屋を間借りして活動していま

す。日曜日の礼拝も、ホスト教会の礼拝が終わって会堂が空いた午後に行います。自分たちの会堂がないというのは、不便なことも多いですが、無いものは仕方ありません。私たちは、これは逆に神のギフトだと気がつきました。私たちの群れは、会堂の管理や修繕の為に割かなければいけない時間から解放されているのです。その自由な時間をすべて、メンバーの方々の家の訪問や、近隣の地方都市での集会のための宣教活動に時間をあてることができるのです。牧師が今どこにいるのかは、携帯に電話をして確認いたします。こうして信仰者同志のネットワークが広がっていききました。

昨年夏、ケンタッキー州で行われた日本語のリトリート・カンファレンスであるコイノニア・リトリートには、七つの州から百名以上の方々が集まりました。普段は小さな集まりである各地の日本語礼拝・諸集会在、様々な教派的な違いを超えて主にあつて手を繋ぎ、日本語での宣教が実現しているの

です。

復活された主イエスは言われました。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」(使徒一章八節)と。主にある共同体は、あのペンテコステの日から始まり、まさに地の果てにまで福音を伝えていきました。クリスチャンは、迫害によって地中海、そして世界全体に散らされました。きっと小さな集会も多かったと思うのです。しかし、そこで福音を伝え続け、遣わされた信仰者たちは、今度はそこを、福音宣教の拠点と変えていきました。

最初に福音伝道の拠点はエルサレムの教会でした。しかし、後から生まれたアンテオケの教会が異邦人宣教の拠点となり、エルサレムの飢饉の際には支援をするように成長していったのです。かつては辺境と呼ばれた場所が、やがて宣教の拠点となっていくということが聖書は力強く証しています。もし、あなたの住んでいるところが、日本人クリスチャンが少なく、日本語教会も無いとしても、ハレルヤ！主はあなたと共におられます。そこでしか出来ない働きが必ずあるはず。聖霊の風をうけながら、この宣教のつとめを共に、それぞれので担い、信仰の歩みを確かにしていきましょう！

イスラエル旅行に参加して
大里エミ

「この人もいっしょにいました！」
「私はあの人を知らない」
「お前もあの連中の仲間だ！」
「いや、そうではない」
「確かに、この人も一緒だった。」
ガリラヤの者だから」

「あなたの言うことは分からない」
捕えられて大祭司の家に連れていかれたイエスを遠く離れて追っていたペテロは、人々に問いただされ、三度目の否認が終わらないうちに突然鶏が鳴いた。「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないというだろう」と言われた主の言葉通り、自分を責めてしまったことを思い、ペテロは激しく泣いたと各福音書に記されています。ユダの裏切りによりゲッセマネの園で捕らえられたイエス様は大祭司カイアファの屋敷に連れて行かれました。この聖書でも重要な話の舞台となった大祭司カイアファの屋敷跡であろうとされているところがエルサレムのシオンの丘にあり、現在は The Church of Saint Peter in Galllicantu 「鶏鳴の聖ペテロ教会」となっています。

が、なかなか行く機会がありませんでした。しかし、今年の二月に長年の願いを神様が聞き入れてくださり、マウント・ハーモン修養会で二年連続講師をしていただきました。福野先生が団長の第三回クリスチャンパワーミニストリー(CPM)イスラエルの旅九日間に参加することができました。旅の間、多くの場所を訪れ、行く先々、感動の連続でしたが、時が少しかったイースターの時に今回の旅を振り返って見て、私にとつて一番印象深かったのはこの鶏鳴教会を訪れたことでした。

この教会が最初に建てられたのは、AD四五七年のテオドシウス帝の時ですが、AD一〇一〇年にフアテイマ朝のアル・ハーキムに破壊され、AD一一〇二年に十字軍が再建しました。その後もエルサレムが長い間、イスラム勢力に支配占領され、現在の教会は、十字軍時代の建物の廃墟の跡に一九三一年に新しく建てられたものです。教会の壁画やステンドグラス、庭にあるいくつもの銅像がペテロが愛し従ってきた主を三度否定してしまふ話を物語っているだけではなく、教会の建っている岩の下に地下牢跡が発掘されていて、そこで大祭司、祭司長、律法学者たちによって尋問され、拷問を受け、イエスが夜を明かしたであろう牢獄を見ることが出来ます。ルカに



地下牢跡
を縛るロープが
手口が
両方の
から下
かめが
天井た
垂る

よる福音書二十四章には「見張りをしてい
た者たち
は、
イエ
スを
侮辱したり殴ったりした。そして目隠しをして、『お前を殴ったのはだれか。言い当ててみる』と尋ねた。そのほか、さまざまのことを言つてイエスをののしつた」と書かれています。当時の拷問の主たるものは鞭打ちでした。天井の穴に両手を縛られ、硬い革に金属が埋め込まれた鞭で打たれ、皮膚が裂けたという、とても残酷なもので、鞭打ちは四十に一つ足りない三十九回と決まっていたようです。それは律法では人を殺すのは罪なのでその一歩手前まで鞭を打ち、そのまま数日牢獄に放置しておく」と大概の人は死に至るといふことなのだ
そう
す。イ
エス様
はここ
で一晩



石の階段

あかし、裁判を受けるためにローマ総督ポンテオ・ピラトのもとへ引かれていったのでしょうか。教会の中庭にある石の階段は十九世紀に発掘され、二千年前のもので



大里夫人右から二番目

感謝の気持ち
持たせて
っばい
す。また
今回のツ
アーに参
加された
兄弟姉妹

あると確認されているようです。瀕死の状態を引かずつてイエス様が実際に歩いた可能性があるこの階段を見下ろした時に、胸が裂ける思いでした。弱い私たちはイエス様を三度否定してしまつたペテロのように、世に流され、人々の目を恐れて、逃げたり、つまずき倒れます。しかしそんな時にこそ、私の罪を洗い流すために、イエス様の血が十字架で流され、赦されたことを、立ち上がるチャンスを与えられていることを覚えて喜び、ペテロのように変えられ、主の僕として歩んでいきたいと決意を新たにしました。

この度の旅行に参加するきっかけになったのもJMESのマウント・ハーモン修養会を通じて福野先生とお知り合いになれたからなので、神様の大きいご計画に

の方々と親しい交わりを深めていくことができ、美味しい食事をたくさんいただき、よく歩き、霊肉ともに祝福と恵みがいっぱいの旅でした。

(ガーデナ・バレー・バプテスト教会)

ユース・リトリート

市川恵子

今年の春にJEMSの藤本さんから、内越先生が日本からセミナーのために来られるが、先生の予定が四月五日〜七日の間空いているというところをお聞きしました。私は昨年から南加連合のユース担当として超教派のユースキャンプ



をしたいと祈ってきました。ここに主の導きを感じ内越先生をお招

きしてキャンプをすることに決めました。それから二ヶ月の準備期間中、参加する子供達とスタッフの人数、経済面、宿泊施設などの様々なチャレンジを主が恵みによって一つ一つ乗り越えさせてくださり、南加、北加の十以上の教会から集まったユース及びスタッフと共にキャンプを行うことができました。ユース二十六人、大学生スタッフ八人、食事スタッフ四人、大人の献身者スタッフ四人がアメリカ側から参加し、日本からは内越先生と二人の先生のお子さんと教会スタッフの太田先生と四人でキャンプの奉仕をしていただきました。

アメリカ側の参加者は、最初のセッションから内越先生がリードしてくださり、スタッフと子供達がゲームで思いっきり一緒になつて遊んで打ち解けて、子供と大人の間に関係が作られていくのを感じました。色々なゲームがありましたが、そのほとんどがお互いがチームになつて一致を保ち、一つの目標に向かっていくタイプの遊びで、頭を使い友達を助け補いつつ自然に大人も子供も友達になつていくという感じでした。まさしくお友達伝道です。そしてそのお互いの関係ができた中で、内越先生は遠まわしにせずにつまづくに人間の罪と十字架についてメッセージしてくださいました。アクティビティの後にもかかわらず、子供達は先生の十字架のメッセージに耳を澄まして聞き入っていました。数人のノンクリスチャン参加者もその一体感の中で心を開いていました。大人と子供の信頼関係が築かれています。どこまでも福音がストリートに子供達に受け入れられていくということが私にとって衝撃的でした。

二日目の土曜日午前中は沢山ゲームで遊び、みんなますます打ち解けて行き、午後はユースの子供達が興味がある男女の関係、恋愛についてのセミナーを通して、神様の子供として自覚をもち自分を清く保つことがどれほどイエス

様にとつて、又自分自身にとつて大切な学びました。「子供達は神の王子、王女」という自分自身の価値が語られたとき、子供達の目は輝いていました。夜の集会の終わりのときには、主への献身の思いが与えられている子供達が前に出て皆で祈る時間を持ちました。

日曜の朝、内越先生は「信仰は選び取るもの、神様はあなたを選んでいられる、あなたは神様を選ぶのか？」と力強く問いかけてくださいました。そのメッセージに私自身が強く主の語りかけと導きを感じました。子供達は日曜の礼拝が終わつて解散するまで普段夢中になつていて携帯電話のことなど完全に忘れてスマートフォンでメッセージについて熱心に互いに語り合



り合い友情を深めて行きました。帰宅の時間に、それぞれが本当に別れを

惜しみつつ帰途につきました。私がこのユースキャンプと、MEBIGのセミナーを通して学んだことは、子供達と関わる大人が

まず自分を主にささげ、本気で子供達と向き合っていくときに、初めて子供達も大人に心を開き、自分を主にささげていくようになるということでした。南加のそれぞれの日系教会のユースの人数は少なくても、このように教会の垣根を越えて参加者を集めてキャンプを行うことでユースたちが深く主と出会い、ネットワークを作り、またそれぞれキャンプで受けた恵みを自分の教会に持ち帰ることができることがわかりました。

主が内越先生とMEBIGを通して、これから私自身がどのようにミニストリーと子供達に関わっていくかということを具体的に示してくださいました。それが本当に感謝です。そしてアメリカでの日系教会の子供ミニストリーがMEBIGの体験を通してますます祝されていきますように。

(ジャパニーズ・アメリカン・クリスチャン・チャペル牧師夫人)

第二回 MEBIGセミナー

二〇二〇年五月十二日〜二十五日に、内越先生が再びロサンゼルスを来訪され、第二回 MEBIGセミナーを開

催する予定です。ご予定にお加えください。



MEBIG

セミナーに参加して 日下部かおり



祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです。

第一ペテロ三章九節

四月十三日、十四日に、北米第一回MEBIGセミナーがロサンゼルスで開催されました。

二〇年以上前、日本の母教会で教会学校のお手伝いをしていた頃、私は初めてMEBIGと出会いました。子供を一人の人間として認め向き合う姿勢と、みことばを体験するキリストの弟子を育て(Memory)、礼拝し(Bible)、遊びを重要視する(Game)ミニストリーにとっても感銘を受けました。

現在、私はニューヨークの日米合同教会で教会学校のご奉仕をさせていただいています。MEBIGを取り入れたいと願ひ試みましたが、なかなか思うようにいかず、行き詰まりを感じていました。日本に一時帰国中にはMEBIGのセミナーの参加を考えたこともありませんでしたが、条件が合わず、諦めてしまいました。そんな中、アメリカでMEBIGセミナーが行われることになり、様々な形のサポートを受けて参加できる道が開かれました。主の導きに感謝します。

そこで再びおともだち(MEBIGでは子どもたちをおともだちと呼びます)伝道の重要さと楽しさを再確認できたことを心から感謝しています。

今回のセミナーで、最も励まされたことは、「イエスさまの弟子を作る、育てる考え方」でした。私



私たちの教会学校は、私の主人ともう一人の姉妹と私の三人で奉仕しております、

自分の子供達三人と教会員の方々のお子さん三名がレギュラーメンバーです。おともだちの人数も少なく、年齢もバラバラ。奉仕者の数も間に合っていない、そんな状況ですが、まずイエスさまの弟子を作り、育てることを大切にすれば良い、と教えられました。一人のおともだちがイエスさまの弟子として成長している姿を教会が見るなら、教会が変えられていくということに励まされました。

何よりも私自身が、みことばに日々養われて生き、キリストの弟子として喜びを持って歩み、おともだちミニストリーを全力で楽し

むことが大切であることを学びました。私たちは受けた恵みを他の人たちに受け継ぐことを忘れてしまいがちです。神様からの恵みをまず伝え、その愛を実践できるようにしたいと思います。続いておともだちが家族や別のおともだちに伝え、受け継いでいくことを祈ります。

またセミナーではこれでもか!というぐらい(笑)じゃんけんをして、ゲームに時間を取りました。大人ばかりでしたが、楽しく充実した時となりました。おともだちの中には、負けるのが嫌でゲームに参加しながら嫌いだと言いますが、「ゲームにはやり直しがきく」ということを気付かせてくれます。遊びを通して、私たちの人生も神様にあつてやり直しができるという事実を知って、励まされます。

私たちの目の前には修復不可能と思えるような状況が起こりますが、不可能と思えることが常識を超えて、絶望的な問題さえも用いて、神様は素晴らしいご計画を用意してくださるといふ希望を共有できるようにおともだちとの関係を築いていきたいと思うのです。

セミナーで紹介されたMEBIGオリジナルの賛美が、毎日私の頭の中でエコーしています。「信じてる 神様の大きさ どれくらい大きんだろう?目の前の悩みごと 大きくなる God is

big。あなたに解決できないものは無い 信じて大きくしよう 神さま大きくしよう 宇宙より大きな愛 果てしなく大きな愛 ことえ 永遠に」

私たちは神様の偉大さを私たちの常識で測ろうとしてしまいますが、この賛美を口ずさむたびに常識をはるかに超えた神様の無限の大きさを、思わされます。神様の素晴らしさをおともだちと一緒に発見していったらと思うとワクワクしてきます。小さな私たちの教会学校が、おともだちと共に成長できることが楽しみです。

先日、イースターのおともだちプログラムで、私たちなりにMEBIGのやり方を取り入れてみたところ、久々に参加された保護者の方々に「毎週こんな感じであれば、頑張つて子どもたちを連れてきたい」と言っていたきました。みことばに真剣に向き合う場所が必要とされているのだと改めて感じました。教会学校のスタッフとおともだちが共に遊びやみことばを通して楽しみ、主の復活をお祝いすることができたことを感謝します。何よりもそれを可能にしてください。心から感謝します。全く足りないものだらけの者ですが、主が許される限りこれからは主の恵みを受け継ぐために伝えさせていきたいと思います。

(写真…右から二人目が日下部かおり姉)

第70回 マウント・ハーモン修養会

6月30日(日)～7月6日(土)

見よ、わたしはすべてを新しくする。
(ヨハネの黙示録 21章5節)



【朝の聖書講解】

講師: 福野正和師 RCI 南大阪福音教会主任牧師

JEC理事・関西聖書学院(KBI)講師・理事長

メッセージタイトル

〈新しい時代に向かっていく信仰と霊性〉

【夜の集会】(予定変更有)

1日(月): 大里英二師 2日(火): 木村基一師

3日(水): 藤井肇師 4日(木): 市川祥師

5日(金): 福野正和師

【分科会】 テーマ: 信仰成長、祈り、伝道など

部分参加、1日参加も可 (詳細は JEMS まで)

ウインターズバーク長老教会 日語部牧師募集

教会住所: 2000 N.Fairview St. Santa Ana, CA 92706

募集要項の請求、詳細などは下記までご連絡下さい。

email: wintersburgnichigopcn@gmail.com

Nichigo Pastoral Search Committee

JEMS 夏季日本短期宣教チーム

JEMS キャンパスミニストリーの働きである AACF の大学生 19 名と JEMS スタッフ 3 名が下記のように日本へ短期宣教に行きます。チームのためにお祈り下さい。

❖ 阿蘇(7月8日-24日) 5名+ロイ藤間

ゴスペルホーム・グローリー教会と協力して地域の中学生への伝道

❖ 北海道(7月8日-24日) 4名+藤本三奈子

MEBIG の愛燐チャペルキリスト教会で奉仕

①7月24日-27日 ②7月31日-8月3日

❖ 名古屋(7月20日-8月5日) 5名

名古屋在住のティム・バーンズ JEMS 宣教師と共にミュージックキャンプや英語クラスで奉仕

❖ 豊橋・長野(7月20日-8月5日) 3名+ジョン・

ルと藤本一ブラジル福音ホーリネス教団豊橋教会と協力し、キッズキャンプやユースグループで奉仕後、長野聖高原でのぶとぶキャンプで奉仕



ナショナルパークを巡る旅 9月3日-15日

ユタ州、ワイオミング州、サウスダコタ州、ネブラスカ州にある国立公園をバスで周る英語でのツアーです。

詳細: samt@jems.org まで

Paul Nagano 師(訃報)

JEMS 初代総主事のポール・ナガノ師が4月13日、98歳で天に召されました。1920年にロサンゼルス・ボイルハイツで誕生したナガノ師は、祖父が1877年最初の日本人移民として長崎からカナダに渡り、北米3世として誕生。17歳の時、現エバー・グリーン・バプテスト・チャーチで救いの確信を得る。第2次世界大戦中は強制収容所にある教会で牧会。戦後は収容所を出た日系人コミュニティに尽力。JEMS を立ち上げ1949年第1回マウント・ハーモン修養会の英語部のメイン講師。フローレンス夫人とご家族の上に主からの慰めが豊かにありますことをお祈り致します。



【近況報告】

「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。」(伝道者の書三章一節) 長男がハイスクールを卒業し、大学進学のため、九月に家を出ます。幼い頃は、この日を遠い日のように感じていましたが、時は確実に流れていくことを実感しています。人生のゴールを目指し、日々主のしもべとして歩んでいきたいと願います。

【編集後記】

今は恵みの時、心を澄まして、主のみ声に耳を傾け、主のご計画がことごとく成就されていくことを見出し出していきたい。

藤本三奈子

西原黎子

【JEMS 宣教師リトリート】
三月二十五日から二十七日まで日本で働きをしている JEMS 宣教師家族のためのリトリートが、名古屋のキリスト聖書研究所でロ&キャロ・ミヤケ夫妻を講師に持たれました。日頃日本で忙しく働きをしている宣教師たちが、メッセージや交わり、お互いに祈り合うことで霊的な満たしや励ましを受け、再び主の働きに力強く出て行く二日間となりました。

現在、日本で二十組の JEMS 宣教師が日本人の救いのために日本各地で働きをしています。引き続きお祈りとサポートをお願い致します。

